

第 20 回米百俵賞受賞

(平成 28 年 6 月 15 日表彰)

NPO 法人 **インクルいわて**

(岩手県盛岡市)



ひとり親に対する就職のためのスキル習得、家庭との両立支援や子どもへのケアなど、ひとり親家庭の社会的な自立を支援した。

■受賞時プロフィール

日本のひとり親家庭の貧困率は 50% を超え、ひとり親やその子を取り巻く状況は先進国中でも最悪と言われていた。

また、岩手県内においては、母子家庭約 12,000 世帯、父子家庭約 1,100 世帯のひとり親家庭が暮らしている中で、東日本大震災以前に県内にひとり親家庭支援団体がなかった。

このような背景の中、東日本大震災を契機に、生活困窮者、子ども、母子、障害者の各分野の支援者や司法で活動する者が、分野横断的にひとり親家庭支援の必要性を共有し、協力して取り組むため、平成 23 年 10 月にインクルいわてを設立した。

インクルいわてでは、平成 24 年 10 月から半年間、震災により影響を受けた女性及びひとり親を対象に、就労支援、生活支援、子育て支援を組み合わせた包括的就労支援を実施。スキルの習得のみならず、ひとり親家庭ならではの生活面や子育てサポート、心のケアも包括的に実施し、事業期間経過後も継続的に支援している。その結果、6 人の対象者のうち



▲おひさまくらぶの活動の様子

4人が就労し、1人が簿記資格を取得し本格的に就職活動を開始する等、全員が社会参加を果たした。

このほか、ひとり親家庭への継続的な支援として、ハンドケアを行いながら各種の相談に応じるリフレッシュ・エンパワーメント事業、親子が一緒に楽しめる季節の企画や習い事を体験できる「おひさまくらぶ」事業を実施している。

また、ひとり親家庭の支援に携わる異なる分野の人々を対象とした「ひとり親家庭支援者養成講座」を開催し、多角的な支援の視点を身に付けた支援者の育成にも力を注いでいる。

インクルいわての実施している活動が「中間的就労支援インクルモデル」として全国から注目されるとともに、政府の一億総活躍国民会議有識者ヒアリング等に招かれ、政策提言を行っている。

さらに、平成27年度から、岩手県男女共同参画センター管理運営受託者として、これまでの活動で培ったネットワークを生かし、分野横断的連携による運営を開始している。

インクルいわての活動は、ひとり親家庭の社会的な自立を支援しているのみ

ならず、地域に居住する外国籍者やセクシャルマイノリティへの支援など、すべての人にとって生きやすい包摂された社会の実現を図っている。



▲ハンドケアスタッフ講習会の様子

■受賞後の活動

ひとり親家庭支援の重要性が認知され、全国的にも多くの取り組みが増えてきている。こうした中であって、インクルいわてでは、当事者や支援する人々だけが取り組む、関わるのではなく、地域で安心して子どもたちも親も生きていけるように地域住民の参画と理解促進が重要と考え活動している。

平成28年からは「インクルこども食堂」を開始。「食堂」としての機能にとどまらず、参加する親や子どもが地域の様々な人たちと交流し、家庭生活の中で

は体験することが難しい行事への参加を創出する事業として実施している。

また、コロナ禍においても「コロナに負けるな！プロジェクト」として、夜間の電話相談や受験生応援プログラムなどを実施している。

理事長の山屋氏は、今後も団体のビジョン「家族のカタチに関わらずだれもが生き生きと暮らしていける包摂された社会(Inclusive Society)の実現」に向けて活動していくと展望を語っている。

■主な受賞歴

- 令和元年 岩手県元気なコミュニティ特選団体
- 令和3年 子供と家族・若者応援団表彰【子育て・家族支援部門】内閣総理大臣表彰



▲こども食堂の様子